令和６年度

「運営に関する計画」
中間評価

大阪市立宝栄小学校

大阪市立宝栄小学校　令和６年度運営に関する計画・自己評価（総括シート）

１．　学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、「学びあう、心を見つめ合う、たくましい児童を育てる」を目標とし、一人一人の子どもにとっての安心・安全な居場所、活躍の場を作るとともに、子どもたちが生き生きと楽しんで考えや思いを伝えあうことができることを目指して研究・実践を進めている。

例年、不登校や学級に入れない児童で、これまでと違って友達関係に起因するものが複数あがっている。学級でのトラブル処理をどうするかが問われるものと考える。不登校やいじめ事案に関して、今回の運営に関する計画の最終反省にて確認していきたい。

昨年度は、「学級力調査」に取り組み、高学年では、自分たちの学級がどのような状況なのかを見える化したうえで、より良い学級づくりについて考えることができた。今年後は、全学年で実施し、発達学年に応じた見方で学級集団を振り返らせたい。人間関係がこじれて学級に入れない状況を生まないためにも、自分たちの学級がどういう状況であるのかを意識し、より良い集団を育成できるよう取り組みを実施していく。

家庭学習に関わっては、７割以上の児童が定着しているという教員アンケートの結果がある。これまで国語科中心に「読む力」を高め「伝え合う力」を育てるため、自分の思いや考えを、正しい言葉で豊かに表現できるよう研究を進めてきた。昨年度の大阪市学力経年調査では、ほとんどの学年が大阪市平均をわずかに前後する得点率であったが、特に「情報の扱い方」等の領域では、大阪市平均を下回っている。そこで、今年度も引き続き国語科指導の研究を行い、全学年での国語科研究授業を実施する。また、基礎学力の定着のため、２学年において漢字検定の団体受験を行う。さらに、自主学習環境を整えることで、国語科以外の教科にも学習意欲の向上を図り本校児童の学習課題を克服する。

中期目標

【安心・安全な教育の推進】

① 小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、もっとも肯定的な「思う」に回答する児童の割合を８９％以上にする

② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率の割合を昨年度よりも減少させる。

③ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の（登校に対する状況の）改善の割合を増加させる。

【未来を切り開く学力・体力の向上】

① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を４０％以上にする。

② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度よりも１ポイント向上させる。

③　小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７４％以上にする。

④　小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７５％以上にする。

⑤　小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を７３％以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

①　年度末の人事考課での面談で、「ICT 機器を効果的に活用し、業務の効率化を図ることができた」と回答する教職員の割合を６５％以上にする。

②　時間外勤務３０時間以下の教職員の割合を６０％以上に、かつ３０時間以上４５時間以下の教職員の割合を３０％以上にする。

本校の課題解決に向けた取り組みの重点

（1）　安全・安心な教育の推進

①　だれもが安心できる学級集団づくり

○　日常的に取り組むこと（いいとこみつけ、帰りの会の工夫など）

○　トピック的に取り組むこと（イベント、いじめを考える日など）

○　学級力アンケートの効果的な活用方法を模索する

②　けがの防止

○　遊び方を考える　　○けがをしない環境　　○ルールの見直し

③　命を守る性教育を創造する

○　指導上の課題の情報交換

（2）　未来を切り開く学力・体力の向上

①　自主学習の深化を図る

○　NHK for School の効果的な活用

○　総合的な学習で学び方を学ぶ　　○外部講師を招聘

②　遊びからの体力の向上を目指す

○　体育学習での多様な運動に取り組む　　○遊びたくなる環境の整備

（3）　学びを支える教育環境の充実

①　ICT 機器活用に関する項目一人一台 PC の日常的な使い方を創造する

○　プログラミング学習の継続　　○研修の工夫

②　教員の働き方改革

○　会議の精選と時間短縮

○　ペーパーレス化の追求

大阪市立宝栄小学校　令和６年度運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 1. 小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、もっとも肯定的な「思う」に回答する児童の割合を昨年度以上にする。　（昨年度 88.9%） 2. 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率の割合を昨年度よりも減少させる。 3. 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 4. だれもが安心できる「学級集団づくり」について学年会での情報交換と具体的取り組みの交流を図り、学校が楽しいとの肯定的回答を８０%以上にする。 5. けがの防止に向けて具体的な取り組みを行い、けがによる病院受診数を減少させる 6. 命を守る性に関する指導をカリキュラムに位置づけ全学級で１時間以上の実践を行う。	

令和６年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る目標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向１　安全・安心な教育環境の実現】 いじめへの対応 ○「いじめについて考える日」や道徳の学習を通して、いじめについて認識を深める取り組みをする。 ○　いじめが起こりにくい学級集団づくりに取り組み、いじめアンケート等でいじめを把握した際は迅速に対応する。 指標 ・どのような事例がいじめにあたるのか等、いじめについて学期に一回以上、学校全体で学習する。（SSET　研修　学級の児童の実態を考える研修　３回） ・児童アンケートで「いじめはいけない」との回答を昨年度以上（88.9%）にする。	B
取組内容②【基本的な方向１　安全・安心な教育環境の実現】	

不登校児童への対応 ○　誘いかけや、家庭訪問、担任とその他の教職員との関係づくりに加えて学校での居場所づくりを積極的に進める。 ○　児童の状況を全体で交流する会議(スクリーニング会議を含む)を月一回開催し、児童の状況を共有し、区役所・子どもサポートネットとの連携を図る。 指標 ・　不登校児童の登校に関する状況の改善を図る。指標は不登校児童に関係する教職員の所見による。 ・　不登校児童に関する校内ケース会議を最低１回／２月開催し情報を共有する。 ・　児童アンケートで「学校が楽しい」と肯定的に回答する児童の割合を８０パーセント以上にする。	B
取組内容③【基本的な方向１　安全・安心な教育環境の実現】 ＜児童の居場所となる学級集団の育成＞ ○　一人一人の違いを認め合い、互いに支えあえる学級の実現にむけて、学年・学級に応じた取り組みをする。 ○　学級力アンケートを用いて、学年・学級の課題を把握し、課題を解決するための取り組みをする。 指標 ・　児童のおかれている状況を共有する場を最低１回／２月設け、課題のある児童の実態を学校全体で把握し、学年・学級の取り組みを共有する。 （職員会議後実施　　ほぼ１回／月） ・　児童アンケートで「今の学級は、学級目標にむかって頑張っている」という項目で、肯定的な回答する児童の割合を８０パーセント以上にする。 ・　学期に１回学級力アンケートを実施し活用していく。	B
取組内容④【基本的な方向２　豊かな心の育成】 ＜　相手を思いやる気持ち　＞ ○　クラブ活動・委員会活動・縦割り班活動に代表される異年齢交流による活動を積極的に実施し交流の輪を広げる。 指標 ・　児童アンケートで「異学年交流活動（クラブ、委員会、たて割り班、学年交流など)」に関する項目で肯定的に回答する児童を８０％以上にする。	B
取組内容⑤【基本的な方向２　豊かな心の育成】 ＜自尊感情、自己肯定感＞ ○　学級での取り組みや、学校行事、異学年交流を通して自尊感情や自己肯定感を	B

育む。 指標 ・　児童アンケートで自尊感情に関して肯定的に回答する児童を７５％以上にする。	
取組内容⑥【基本的な方向１　安全・安心な教育環境の実現】 ＜けがの防止＞ ○　「学校生活のきまり」を守らせ、けがの原因等を振り返らせ、事故防止に関する児童の意識を高める。 ○　けがの原因を振り返って、けがをしたときに決まりを守っていたのか、いなかったのかを考えさせる。 指標 ・児童アンケートで「学校の決まり」を守っているか。の肯定的回答を８０％以上にする ・各種の委員会活動で、児童によるけが予防に関する啓発活動を学期に１回以上実施する。	B
取組内容⑦【基本的な方向１　安全で安心できる学校、教育環境の実現】 規範意識の向上 ○　校内で作成した「学校生活のきまり」を各学級で、学期に１回以上確認し、規範意識を高める。 指標 ・　児童アンケートで「決まりを守る」に関する項目で肯定的に回答する児童の割合を９０％以上にする。	B
取組内容⑧【基本的な方向２　豊かな心の育成】 命を守る性に関する指導 ○　命を守る性に関する指導を大阪市教育委員会がまとめた『性に関する指導』の手引きを参考にしながらカリキュラムに位置付ける。	B
・　性に関する指導の年間指導計画を作成し、各学級で３テーマ以上実施する。（いのち、家族、キャリアに関する項目）	

年度目標の達成状況や取組の結果と分析
取組内容①　いじめ 　いじめの対応に関しては、「いじめについて考える日」での校長先生から全校児童への講話や、道徳の学習を通して児童がいじめについての認識を深める取り組みを各学年・学級で進めている。いじめアンケート等でいじめを把握した際は、学年や学校で迅速に対応できている。児童アンケートで「いじめはいけない」との肯定的な回答は、97%である。 取組内容②　不登校への取り組み 　各学級担任を中心に家庭訪問や家庭との関係作りを行っている。その中で、また、児童の状況を全体で交流する会議も定期的に開催し、児童の状況を共有し、SSW　や区役所等と連携しながら、居場所作りを積極的に進めている。 組内容③　学級集団の育成 　各学級で、学級力アンケートを用いて、学年・学級の課題を把握し、課題を解決するための取り組みを行っている。また、児童のおかれている状況を共有する場を設け、課題のある児童の実態を学校全体で把握し、学年・学級の取り組みを共有している。児童アンケートの「今の学級は、学級目標にむかって頑張っている」という項目では、肯定的な回答する児童の割合が、90%をこえている。 取組内容④　相手を思いやる気持ち たてわり班活動、朝の児童集会などの異学年交流を積極的に進めている。異学年交流に関するアンケートでの肯定的回答は約90%に上っている。たてわり班活動や、学年間の交流を後期もさらに図っていく。（◎51．5%　〇38．2%） 取組内容⑤　自尊感情、自己肯定感 　児童アンケートで自尊感情に関して肯定的に回答する児童は、80%をこえているが、6年生に関しては、肯定的な回答をする児童の割合が70%を切っている。今後、学級や縦割り班活動などで、児童の活躍の場を設けたり、活躍を実感できる機会を作ったりして、自尊感情や自己肯定感を育んでいきたい。 取組内容⑥　けがの防止 委員会活動でけが予防のポスターを作成したり、子ども同士で声掛けをしたりするなど、けがを防ぐ、起こさない意識ができつつある。実際に、病院に行くような大きなけがは減ってきている。アンケートでけがを防ぐために「学校のきまり」を守っていると肯定的に答えた児童は約94%に上っている。（◎45．6%　〇48．7%）継続して意識の向上を図っていく。 取組内容⑦　規範意識 アンケートで「学校のきまり」を守っていると肯定的に答えた児童は約94%に上っている（◎45．6%　〇48．7%）が、廊下を走ったり友だちに嫌なことをしたり言ったりする児童はまだ多い。 「学校のきまり」全般については守っている児童は多いが、アンケートの数字と実態とのギャップが起きていると考えられる。道徳や特別活動などさまざまな場面で、規範意識をより高めるために継続して指導を進めていく。 取組内容⑧　命を守る性に関する指導 各学年の年間指導計画に基づいて、計画的に実施している。

次年度への改善点（案）
（最終評価の時に記入）

大阪市立宝栄小学校　令和６年度運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A:目標を上回って達成した　B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった　D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 1. 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を４０％以上にする。 2. 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度よりも１ポイント向上させる。 3. 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７４％以上にする 4. 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７５％以上にする 5. 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びも含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的に「好き」と回答する児童の割合を７３％以上にする。 6. 家庭学習の定着、自主学習の深化を図る。	

令和６年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る目標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 ＜主体的、対話的で深い学び＞をめざす ○ 研究授業を積極的に実施し、読解力を高める指導を中心に研究に取り組み、主体的・対話的で深い学びをめざす授業力の向上を図る。 指標 ・ 年間６回以上、授業研究会を実施する。 ・ 研修会を学期に１回実施し、指導案の書き方、教材研究の方法などを中心に学ぶ機会を作る。 ・ 教材文分析を深めて、児童が学びを楽しめるような授業を実施する。	B

取組内容②【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 思考力・判断力・表現力をのばす学習 ○　授業の中で、教え合いを取り入れ、対話ができる場を工夫する。 ○　学習形態（ペアやグループ等）を工夫し、自分の意見が言える場をつくる。 指標 ・　多様な意見が交わされ、認め合える学習を計画し対話ができる授業が楽しいことを実感させる。 ・　児童アンケートで「話し合い活動で自分の考えを深めることができた」の肯定的な回答を８０％以上にする。	B
取組内容③【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 家庭学習の習慣化、自主勉強 ○　自主学習を奨励し、週に１回、自主学習に取り組む。 ○　掲示、評価などをすることで、やる気につながる工夫をする。 指標 ・　自主学習を含めた家庭学習の実施状況を全体で７５％以上にする。 （習い事なども含む。）	B
取組内容④【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 読書力の向上、学びの選択 ○　週２回の宝栄タイムを活用し、読書や自主学習を定着させる。 指標 ・　火曜日の宝栄タイムは、読書する時間にする。（読書タイム） ・　金曜日の宝栄タイムは、児童が自分で学びを選択（コグトレ・計算・漢字など）して学習する時間に設定する。 ・　児童アンケートで「本は好き」と肯定的に回答する児童の割合を７５％以上にする。	B
取組内容⑤【基本的な方向５　健やかな体の育成】 運動が好きになるように ○　運動用具を精選し、児童が夢中で遊ぶことができる環境づくりを行い、運動が楽しいと思える児童を育成する。 指標 ・　児童アンケートで「運動が楽しい」と肯定的に回答する児童の割合を８５％以上にする。	B

取組内容⑥【基本的な方向５　健やかな体の育成】 基礎体力の向上につなげる ○　様々な種目・運動を紹介し意欲的に取り組める体育学習を工夫する。	B
指標 ・　新体力テストの体力合計点の記録を市の平均値と同等かそれを上回る。 ・　児童アンケートで「運動が楽しい」と肯定的に回答する児童の割合を８５％以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の結果と分析
取組内容①　＜主体的、対話的で深い学び＞をめざす 　研究授業会は、計画的に進められている。講師の方に教材文分析の方法を教えていただき、指導案を書くときに役立てることができている。教師自身も教材文を深く読みこむことができている。 取組内容②　思考力・判断力・表現力をのばす学習 授業の中で対話ができる場を作ることで、自分の意見を言ったり友だちの意見を聞いたりすることができている。児童アンケートでは「話し合い活動で自分の考えを深めることができた」の肯定的回答は82．7％である。 取組内容③　家庭学習の習慣化、自主勉強 多くの児童が習い事に通っていることもあり実施状況は76．9％である。しかし、学校で奨励している自主学習の提出状況はあまり伸びていない。 取組内容④　読書力の向上、学びの選択 　児童アンケートで「本は好き」と肯定的に回答する児童は75．3％であるが、読書を進んでしている児童は学校ではあまり見られない。毎週火曜日の読書タイムも集中力がなかったり、姿勢が崩れている児童が見られるので、その指導も必要だと思われる。 取組内容⑤　運動が好きになるように 児童アンケートの結果、全学年では 90.9%と目標の 85%を上回ることができた。学年別に見ると、6 年生以外の学年は 85%以上となっている。今年度は学級のボールを一つ増やすこと、跳び箱を一つ新調したりすることができた。引き続き、運動用具の精選、環境づくりに取り組みたい。 取組内容⑥　基礎体力の向上につなげる 新体力テストの結果はまだのため、指標を上回っているかはわからない。児童アンケートの結果、全学年では 90.9%と目標の 85%を上回ることができた。学年別に見ると、6 年生以外の学年は 85%以上となっている。今年度は低学年でテニピン、3 年生はティーボール、4年生はサッカー、6年生はダンスなど、各学年で運動に関する出前授業を実施し、様々な運動に触れることができた。マット運動や跳び箱運動の研修も行い、体育学習の工夫に生かすことができた。

次年度への改善点（案）
（最終評価の時に記入）

大阪市立宝栄小学校　令和６年度運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 **１　ICTの活用に関する項目** 授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の５０％以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕 **２　教員の働き方改革** ・　時間外勤務３０時間以下の教職員の割合を６０％以上に、かつ３０時間以上４５時間以下の教職員の割合を３０％以上にする。	

令和６年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る目標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向６　教育 DX の推進】 （教職員：デジタル教科書、Teams 等の活用など） （児童：デジタル教科書、ワークシートの作成・提出、調べ学習など） ○　各教科の学習を通して情報活用能力、情報モラル等の育成を図る。 ○　NHK　for　School の活用（授業での視聴、調べ学習での活用など） 指標 ・　授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の５０％以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕	C
取組内容②【基本的な方向６　教育 DX の推進】 ○　機器操作ミニ研修会を適宜開催する。 指標 ・　年度末の人事考課での面談で、「ICT 機器を効果的に活用することができた」と回答する教職員の割合を７０％以上にする。	B
取組内容③【基本的な方向７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり】	

○　会議の精選と時間短縮 ○　ペーパーレス化の追求 ○　勤務時間のフレキシブル化を図る 指標 ・　時間外勤務３０時間以下の教職員の割合を６０％以上に、かつ３０時間以上４５時間以下の教職員の割合を３０％以上にする。	B

年度目標の達成状況や取組の結果と分析
① ICTの活用 効率よくデジタル教科書を活用し授業を行っている。また、Teams の活用で課題や宿題の配付、意見交流を行うなど、学年齢に応じて授業に沿った使い方を行っている。児童においては、個々に活用していることが主である。情報を共有し協働学習を進めていくツールとしての使い方ができるよう授業に取り入れていく。 ② ICTの活用研修 教員のICT研修会や情報共有の場を設け、（現在3回実施）授業や情報伝達等に活用している。適宜、幅広い使い方ができるよう研修会を実施していく。 ③ 働き方改革 会議の精選、伝達方法の簡素化を図っている。また、スクールサポートスタッフ等の導入が事務的な仕事の軽減につながっている。全体での改革と個々の改革を整理して、教育の質を落とさず、業務の効率化を図っていく。
次年度への改善点
（最終評価の時に記入）